

登録コード	L1541102	開講年度	2026				
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学特殊実験（心理学実験）						
英文授業名	Psychology: Advanced Experiments						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			これまでの心理学研究で得られた知見に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけられる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			心理学研究の過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけられる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を身につけられる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力を身につけられる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	心理学における研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学びながら、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。 なお、受講生は授業時間以外にも適宜に教員の指導を受ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス：心理学における研究とは 第2回：問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 第3回：問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 第4回：先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 第5回：先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する 第6回：仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 第7回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき仮説を立て、グループ・ディスカッションによって仮説を確定する 第8回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法） 第9回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法） 第10回：データ解析方法と具体的な実施手続きの決定(3)：データ解析の方法を学ぶ（統計法） 第11回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する 第12回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成し、グループ・ディスカッションによって実験シナリオ・質問紙を確定する 第13回：実験・調査の準備(2)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 第14回：実験・調査の準備(3)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する 第15回：中間発表会・まとめ、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加度と討論への参加（25%）、レポーターとしての発表内容（25%）、および期末のレポート・発表（50%）の比率で、心理学における実証科学的な手法を体得したかを評価する。						
成績評価の基準	レポート及び発表について、「問題・目的」「方法」「結果（予備実験結果もしくは仮説）」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。また、予備実験の結果が仮説通り、もしくはほぼ仮説通りであることが望まれる。 1. 研究内容にオリジナリティがある 2. 問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 3. 方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 4. 結果（予備実験結果もしくは仮説）が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 5. 引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6. 予備実験の結果が仮説通り、もしくはほぼ仮説通りである 1から6の全項目を満たしていれば「卓越している」、5項目までできていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」と評価する。						

事前事後学習の内容	発表者は事前に発表資料（動画やスライド等）を作成し，eALPSまたはMicrosoft Teamsにアップすること。 また，授業で指摘された点について，発表後に加筆修正し再提出すること。
履修上の注意	受講は「心理学基礎実験 ・ 」及び「心理学基幹演習」を履修した者に限る。担当教員の研究室で卒業論文を書く予定の者は必ず履修する必要がある。
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟 5 階。 相談のある学生は，事前にメールにてアポを取る。アドレスは，takaseh (at) shinshu-u.ac.jp
教科書	・ 日本心理学会編著（2022）. 執筆・投稿の手びき(2022年版) < https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/02/The-JPA-Publication-Manual.pdf > ・ 各自，自らの研究テーマに沿った論文を収集し，関連する最新の文献や書籍を随時チェックすること。
参考書	授業時に適宜紹介する。